

香川大学メールマガジン 第163号 2012年6月25日



香川大学メールマガジン 第163号 2012年6月25日



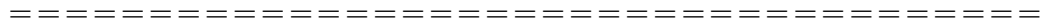
★学長・理事随感 ◎香大に来まい！／あつあつ釜あげニュース ★研究室遍路  
◎今月の大学フォト／香川大学検定 ★あとがき

《香川大学ホームページ》 <http://www.kagawa-u.ac.jp/>



■第163号もくじ

- ◇何がでっきょんな？——副学長随感
- ◇研究室遍路
- ◇今月の大学フォト／香川大学検定
- ◇あとがき



◆◆◆◆◆⇒《研究室遍路》

経済を歴史的に捉えるということ . . . . . 山本 裕

「経済史とは、経済学の一分野にして、歴史学の一分野である」

私が経済学部で担当している「近代経済史」と「日本社会経済史」の最初の講義は、この説明から始まります。しかし、経済学と歴史学、比べればいくつも相違点が見つかります。たとえば、歴史学は過去を扱う学問ですが、経済学は現在あるいは将来に関心を寄せる学問である。経済学は一般的・法則的なものを扱いますが、歴史学は特殊ないしは個別的なものを扱う。歴史は叙述的であります、経済学は分析的である等々。

しかし、改めて経済学を捉え直せば、その分析対象は「近くても、『過去』」であり、将来予測のための材料は過去の数字や統計であることに気付かされます。つまり、未来を予測する為には過去についての知識が充分に必要な、といえます。

歴史学も、無数の事実の中から取捨選択が行なわれ、取り上げる価値がある、知る価値があると考えた事実のみが考察の対象となります。ということは、歴史を見直そうという時には、その時の政治・経済・社会状況によって醸成される価値観の影響を完全に遮断することは出来ません。「歴史は何度でも書き換えられる」、「過去はまさに現在の眼によって眺められる」といった箴言が生まれる所以でもあります。

私が大学3年生で研究会（ゼミナール）に入ったのは1995年、戦後50年という節目の年でした。そしてこの年、経済史を舞台に学術論争が勃発します。「1940年体制論」がそれでした。同論は、バブル崩壊という帰結を迎えた1990年代半ばの日本経済、このようなクライシスを免れえなかったのは、「護送船団方式」といわれた金融システムが、戦時期に成立したまま、特に変化もせず脈々と継続しているからである、とする立論でした。これにより、「現代日本経済」の来歴が論争の議題として俎上に置かれました。

結論から言えば、制度の導入・成立は事実であっても、その後の変容を軽視・無視する同論は、学界からは「暴論」と評価されました。ただし、「暴論」が人口に膾炙し、大きな影響力を持つようになったこともまた事実でした。

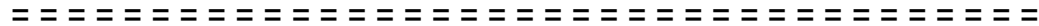
戦後50年、そして振り返られる戦時経済という状況の中、私は卒論のテーマを、「あの戦争」によって産み出された「満洲国」の経済政策と、政策の実施により設立された鉱産物配給会社に決めました。以来、近現代日本経済史と日本植民地研究を研究領域とする研究生生活を継続しています。

そういえば学部生の頃、定年間近い先生が経済学を志した理由について、「貧しい日本を救うために志した」とおっしゃったのを記憶しています。そのような大上段の問題意識を醸成しにくい今日ではありますが、しかし、社会・経済における様々な「違和感」を、どうかそのままにせず、探究する精神を醸成してもらえたらと思います。経済を歴史的に捉えるということは、今日抱いている問題意識を、歴史的事例を題材に、叙述的かつ分析的に再解釈するという、「今日という時代制約の下でのみ生み出される」学問的営為であるといえます。だから経済史は、「常に新しい」と言えます。その新たな1ページを、あなたが切り開いてくれることを期待します。

山本先生のプロフィールを大学フォト内に掲載していますので、ご覧ください。



◆ 《研究室遍路》執筆者のプロフィールや今月の香川大学の様子、  
香川大学検定の答えはこちらをクリック！  
↓ ↓ ↓  
[http://www.kagawa-u.ac.jp/koho\\_center/photo/2012\\_06/](http://www.kagawa-u.ac.jp/koho_center/photo/2012_06/)



次回「香川大学メールマガジン」の発行は7月30日（月）です。



『香川大学メールマガジン』（毎月1回 最終週月曜日発行）

- ・ 配信中止・配信変更・バックナンバーの閲覧及び、本誌ならびに香川大学に関するご意見、ご要望は、以下のホームページからお願いします。

[http://www.kagawa-u.ac.jp/admission/mailmagazine/guide\\_magazine/](http://www.kagawa-u.ac.jp/admission/mailmagazine/guide_magazine/)

- ・ 編集／発行：香川大学広報センター運営委員会、〒760-8521 高松市幸町 1-1



「今月の大学フォト」では、香川大学メールマガジンの「研究室遍路」を

執筆した先生のプロフィールや香川大学内の風景、学生の様子などを写真で紹介합니다。

## プロフィール

香川大学メールマガジン163号の「研究室遍路」を執筆した山本先生の素顔に迫ってみました！



### ■研究分野

近現代日本経済史、中国東北部（＝「満洲」）を中心とした、近代日本における対外経済進出の総合的考察

### ■最近のゼミ

我々のゼミの特徴は、ゼミ生が取り組みたい卒論テーマに3年生の早い時期から着手してもらうことです。ゼミで何度となく報告することで、教員と仲間のゼミ生が、報告者のテーマを我が事のように捉えて質疑応答に臨んでいます。これにより、様々な分野に則した知見と問題点の発見がトレーニングされていきます（プロフィール写真はゼミ4年生のMさんと）。

■氏名 山本 裕（写真右）

■所属／職名 経済学部／准教授

■専門分野

日本社会経済史、日本植民地研究

■趣味 観劇、読書

■メールマガジンバックナンバー

■香川大学ホームページトップ

■今月の大学フォト一覧

### ■読者のみなさんにひとこと

読者にはこれから受験を控えた高校生の方がおられるかと思ひます。是非「歴史学習＝年表の暗記」という固定概念とは決別し、「その時期に」「その地域で」「そのことが」何故起きたのかについて考えるようにしてみてください。また、それらについて、自ら問題意識を持ち、課題を設定することも試みてください。

copyright© 2012 Kagawa University All Right Reserved.



国立大学法人 香川大学 広報センター

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号 電話：(087) 832-1027 / FAX (087) 832-1115